

東部日本語ボランティアネットワーク 第28回定例会(zoom)議事録

2021年6月26日(土) 14:00-16:00

参加者：西村(GGA)、高澤/相田(沼津)、石井(三島のびっこ)、井上(日大アモール)、中村(熱海)、佐野(由)(裾野)、山口(伊豆の国)、虎谷(県)、影山(函南)
欠席報告：古橋(SIR)、田中(シルクロ)、久木野(伊豆の国)、香川(函南)、佐野(智)(のびっこ)、小川(FILS)

●西村(Grandeur Global Academy 沼津校)：

・留学生のワクチン接種：接種券がとどいた。個別ではなく、まとめて引率して摂取できるように検討中。

・プライベートレッスンの生徒さんの話(2人)：中1と中3。中学校3年生の子については進学が結構厳しいかもしれないが、中学校の先生、支援員の方、家族などと話し合いながら、私たちとしてできることを探りながら指導していきたい。

※当日話していませんが、留学生(新入生)は1月半ば以降、まったく入国できていません。母国にいる学生にオンライン授業を実施しています。

●山口(大仁・にほん語かいわ会)

伊豆市が令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白 地域解消推進事業
～地域日本語教育スタートアッププログラム～

に採択され、協力者を探している(伊豆市交流協会広報誌)

・国際ことば学院 富士山日本語学校で1回/週で教えている人を紹介 →伊豆市交流協会副会長と面談

・ニーズ調査をして段階を経て進めていくらしい。交流協会長は1年と話されていたが、*スタートアッププログラムは3年間の予定(高澤)

伊豆市の1年とは???

➡このケースでしょうか？

(1)地域日本語教育アドバイザーのみの派遣(新規応募団体1年間のみ応募可) ○地域日本語教育の専門家であるアドバイザーの派遣に対する支援

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha_startup_program/pdf/93114801_02.pdf

大仁 にほん語かいわ会は、

- ・コロナがあっても毎木曜日実施している。季節イベントも10人位で実施
- ・ワクチンに関してはALTの先生もまだ来ていないとのこと

・ アメリカ、タイ、ベトナム、インドネシアなどの学習者 5,6 人にマンツーマンで行っている。

●相田（沼津にほんご教室）

- ・ コロナ禍で、講師・学習者とも数は減っている。学習者が 5 人程度の日もある。対策はしっかりしている。
- ・ 前回お話しした登録時の学習者の電話番号に連絡をする案は保留になっている
- ・ リモートでの実施も進まないし、意見も積極的には出ない
- ・ 理事会はリモートで会議を始めると聞いているがまだの様子。

●佐野（裾野市海外友好協会）

- ・ 1 年前とほとんど変わらず生徒は減っていない。予約制。約 10 人で推移
飛び込みの人は連絡先を聞いて帰ってもらうほどで待機が 6 人くらい。
- * 裾野市のガイドラインで 10 人くらいでやっている（最大 12 名）

●高澤（沼津にほんご教室、ふじのくに多文化共生ネット）：

- ・ 沼津にほんご教室の話は相田さんと同様リモートが進まないことが気になり。
- ・ ふじのくに多文化共生ネットでは日本語教室は開催していない。
- ➔ 富士宮で活動している若い人のグループとイベントを計画中(対面またはオンラインで)。
- ・ 沼津高専/暁秀高校で教えている。
暁秀はバイリンガルコースで、公立の中学から暁秀高校に入った生徒はほとんど英語ネイティブとなり日本語を話す機会が少なくなっている。
日本と海外を半年ずつ行ったり来たりしている生徒がダブルリミテッドになっていることが気になり
高専の学生は来日できずオンラインで授業に参加している学生がいて、ハイブリッドのクラスができています。

●影山（函南町）

- ・ 函南生涯学習塾で「日本人のための『やさしい日本語』」教室が 6 月から始まった
- ➔ 拡大土曜サロンの受講者が参加してくれているのが有難い
- ・ 都市交流協会の人たちと人間関係を作るために英会話教室にも通学を始めた。
- ・ FM いずのくにので 2021 年 4 月から「やさしい日本語の時間」が始まった。
1 時間/週と 5 分/週 5 の番組で、そのアドバイザーをしている。

●中村（熱海国際交流協会）

- ・ 変わりなく実施している（教員 7 名）
- ・ フィリピンの EPA はオンラインでという要請が来ている
- ・ 「やさしい日本語を用いた防災講座」（仮）を市と協力しながら進める。
- ・ 2021年1月頃に開催された、県・多文化共生課主催の「静岡県における地域日本語教育推進セミナー」にて、トヨタ日本語学習システムを参考した教材を静岡県独自で作成、県・モデル市以外でもぜひ活用をして欲しいと話していたが送られてこない。皆さんのところには届いていますか？

・ 市から支給される日本語教師の交通費について：先生と生徒の個人的な相談対応がある事を考慮して、交通費と能力給の支給を検討中。アンケートを取ったところ、伊豆東部地域によってばらつきがあるようだ。

●井上（日大アモール長）

- ・ アモールの活動は現在ひとつ
- ➔ のびっこのサポートボランティアで8名以上がzoomや対面(北小)で参加している
ボランティアの数が少なくなっている
井上さん以外は日本語教師養成教育を受けていないのでよくわからない人が多い。
大学生の日本語ボランティアに求められているものは何かを知りたい。

●虎谷（沼津にほんご教室、親子にほんごひろば、日本語指導コーディネーター）

- ・ 10月開催予定のNICEスピーチコンテストに申し込みあり。今年は開催予定。
- ・ 親子にほんごひろばはボランティア4人でまわしている
- ・ 沼津にほんご教室には裾野や御殿場からも来ている
- ・ 要日本語指導の子どもたち（学校訪問）
熱海市、伊豆市は少ない
伊豆の国市、函南町は特別の教育課程を組んでいて非常勤の先生が日本語指導
コロナ禍の中、来日する子どもが減っていたが、少しずつ来日してきている

●石井（のびっこクラブみしま）

- ・ コロナ感染予防のため、基本的にZOOMで実施している
- ・ J L P T 受験者のみ、北小学校で実施している。本町タワーも使うことがある
- ・ 複数の高校生から個人的にボランティアの問い合わせがあり、現在、活動している
大学に入ったら外国ルーツの子供の研究をしたいという生徒も
- ・ 大学生が増えない課題は、コロナ禍でイベントができないことも原因。BBQなども
- ・ ロールモデルの話をお聴いてほしいので、ZOOMで経験談発表会をした
➔ 外国ルーツの子供だけでなく、大学生・大人も触発されたよい機会となった
- ・ 総会は5月にzoomで開催した

- ・「みしまめっせんじゃー」発足
 - ➔アンケートの結果をもとに、三島市に提言したことがきっかけで実現した「行政から受けたい支援」の1番は、情報（感染防止と予防策について、自分の国のことばによる情報）情報を多言語で出しているが、当事者に伝わっていない。取りつなぐ人が必要ということが理解され、それが形になった。現在約30人外国人登録者「何か役に立ちたい」
- ・個別事例…コロナの影響
 - ➔身内のお見舞いで母国へ一時帰国したタイミングで、日本に戻れなくなった学校に行けず、三島に戻ってきた時には16歳になっていた高校は義務教育を修了していないと受けられないと言われた文科省から7/1に出された通知の内容をもとに、中学編入の可能性を探る本人が市長に手紙を書くなどし、周りもサポートすることで、編入できた。その後高校へ入学できたボランティアも、国や県の動きに気をつけましょう
 - ➔フィリピンから来日し、帰国できない3人 ZOOMで実施している学校と日本語コーディネーターを繋げた地域ボランティアは地域に知っている人がたくさんいる（人間関係）ことが強み。仲介者となれる

●静岡県国際交流協会 近況報告（古橋）事前メール

○地域日本語教育体制整備事業

- ・今年度のモデル市は袋井市と牧之原市。その他、県からの補助金（1/2）を活用して日本語教室を実施するのは掛川市と菊川市。
- ・文化庁「スタートアップ事業」に伊豆市が採択された。

○県立夜間中学

- ・23年4月に県立の夜間中学が設置される予定。
- ・今年度有識者会議が立ち上がり、当協会も委員を務めている。

○静岡県国際交流協会 新規事業

高校生対象の日本語教育+キャリア支援の取り組みに着手する。完全に新規事業で回数も限られているが、まずはトライアルで高校生支援の現場に入り、今年度の目標としてとにかく課題の洗い出しをしたい。

ここまでの取り組みの中で気づいた点をいくつか報告。

・全体的に高校は小中と違い、教員と生徒との関わりが薄く、生徒の困り感が全然伝わっていない。

・日本語は自然習得でどうにかなると思っている先生がとて、とて、とても多い。

・西部は東部とは逆で、限られた日本語力のまま派遣で工場、という生活を送る仲間が身近に多すぎて、生徒自身をもっと広い選択肢があるという考えにならない。教員もそこまで熱心に生徒の進路に寄り添い支援はしない。全体的に生徒が自分の進路や将来に向けてモチベーションを上げるための環境が十分ではない。

・外国人生徒の特徴として生徒の進路は家庭文化、保護者の影響が大きい。生徒だけでなく、保護者支援の重要性をひしひしと感じる。

●シルクロ（田中）事前メール

週末はほぼクラスがあるのでなかなか出席できずご無沙汰してすみません。

コロナ禍でもシルクロはホームページ等でご紹介されている通り対面でのクラスを通常通りやっています。

転職等で他地域へ越してしまった生徒が多いですが。

皆様によりしくお伝えください。

●久木野（伊豆の国・日本語話そう会）事後メール

1. メインが技能研修生でしたが、ほとんどの方が帰国して、参加がなくなりました。ほんの少しの、外国人（日本人と結婚しているかた）、ALTの外国人が毎週火曜日に来ている状況です。

2. また、日本にいる技能研修生なども、コロナのことがあり、あまり出歩かないようにと、研修先からも指導されているようで、参加を見合わせているようです。

3. この秋、オリンピックも終わり、ワクチンもいきわたるまで、しばらくは動けない状況が続くとよそうしています。

◎フリーディスカッション

井上さんへ

- ・ボランティアは高齢者が多く、若い人（大学生）が関わってくれるのは大事（影山）
- ・日本語教育養成課程を修了した学生がプロの日本語教師にならないのは寂しい
でも、待遇を考えると致し方ないと思う。常勤で入っている人は日本語教師全体で14%

- くらいだったような。少ない。悪循環でボランティア中心になっている。
学生は待遇の悪さに驚き、諦めて仕事は別に持ってやっていく人が多い（高澤）
- ・裾野市は若い人が2人入って生徒さん喜んで（佐野）

中村さんへ（高澤）

- ・トヨタ方式の件：
コロナで事業がうまく進まず、昨年9月から補正予算を組んでやっているようだ。
沼津市はモデル市になりたいと立候補したが、県から説明をうけ市は辞退を決断。

沼津日本語教室のオンライン化について（高澤）

- ・トップが積極的でなく、オンライン化は難航
- ・スピーチコンテストのオンライン化についても全く取り上げてもらえない
- ・石井さんが言っていた高校3年生の子 沼津にも来たと思う。
→虎谷さん：特別支援と日本語教育 話をしたい

佐野さんへ（相田）

- ・人数制限をかけている？
→コロナで仕方がない。同じ人がずっと待機している。
→東部ネットオンライン教室のようなものができたらすごい
IRODORIのオンラインがとてもよい（影山）

能力給での支払いについて（中村）

- ・どんな資格の方に？（相田）
→420時間修了&教育能力試験を持っている人2名。現在は、一回500円の講師交通費を、支払っている。
・文化庁「つなひろ」の教材を送ってもらえるように、県に問い合わせたが、冊数が限られているため県内の全市町の日本語教室へ送ることはできないという回答だった。「日本語教室空白地域」には送付済みのはずです。

三島メッセージャーについて（石井）

- ・具体的に何をしているのか（相田）
→三島市国際交流室もFBのグループを立ち上げた
行政からの情報をメッセージャーが伝えられるツールで伝えられる人に伝えている。
多言語でいろいろなものが上がってくるので情報の精査が難しい。
正しい情報を必要な人に伝えるというのがメッセージャーの役割
→コロナでデマも出ている。